

媒体名	ふくしはんなん
掲載号	Vol.138 2019年3月



「みんなでプルリングを集めて車椅子に。必要な方々にご利用いただければうれしいです」と、ヤナセ労働組合・中央執行委員長 竹田さん(写真右)から阪南市社協の矢島事務局長へ。

車いす1台を寄贈いただきました！

平成31年1月21日(月)、ヤナセ労働組合から阪南市社協に『自走式車いす』1台を寄贈いただきました。ありがとうございました。
寄贈いただいた車いすは、必要な方の移動を支えるものとして大切に活用いたします。阪南市社協では市民の皆さんに無料で車いすの貸し出しを行っています。

車いす貸出について

- 対 象 / 阪南市民
- 貸出期間 / 3か月単位 / 9か月まで延長可
- 車いす保有台数 / 7台(自走式4台・介助式3台)
- お問い合わせは阪南市社協【TEL072-472-3333】まで



媒体名	和苑
掲載号	2月号

Information

大切に集めたリングプルで、7台目の「車いす」を寄贈

ヤナセ労働組合 中央執行委員長 竹田 玄明

ヤナセ労働組合は社会貢献活動の一つとして、車いす寄贈を目的とした飲料缶のリングプル収集を2006年にスタート。そのほか、エコキャップや外貨コイン収集によるワクチン支援活動も行っていますが、リングプル収集は地道な活動の成果が「車いす」として形になるため、達成感はひとしおです。今回、従業員やお客さま、取引先、友好労組の仲間が思いを込めて大切に集めた、1つ約0.5gのリングプル約200kg(約40万本分)をアルミ資源として提供し、7台目の車いすを1月21日に大阪府阪南市社会福祉協議会に寄贈しました。矢島 満夫 事務局長には、「老朽化している車いすの入れ替えを検討していたので、大変ありがたい。皆さまの趣旨に則って有効に活用したい」と、とても喜んでいただきました。また、6台目から約1年という速さでの寄贈は、今までよりも効率の高いアルミ資源交換が実現した結果です。

私たちは法律や社会に守られた労働組合として、今後もさまざまな社会貢献活動を通じて全組合員が健全な社会の発展を目指すとともに、社会的役割を全うしていきます。



左から、大阪府阪南市社会福祉協議会 矢島 事務局長、関西営業本部 奈良支店 販売課 東 竜也さん(執行委員)、同営業本部 業務課 真辺 岳央さん(関西支部長)、ヤナセ労働組合 花澤 友希 中央書記長、竹田中央執行委員長

ヤナセ組 7台目車いす寄贈

ヤナセ労働組合（竹田玄明中央執行委員長）は1月21日、阪南市社会福祉協議会に7台目となる車いすを寄贈した（写真）。

同労組では平成18年から、社会貢献活動の一環として、飲料缶のリンクプルを収集して、資源リサイクルに役立てるとと



もに、車いすに交換、各地の社会福祉協議会などに贈る活動を続けている。今回は約200kg（飲料缶40万本分）をアルミ資源として提供、車いすへの交換が実現した。

贈呈式では、竹田委員長が阪南市社会福祉協議会の矢島満夫事務局長に、真新しい車いすを直接手渡した。矢島さんは「心から感謝します。今後は車いすの貸出事業に役立っていききたい。現状は長期の貸し出しや老朽化で、稼働している台数が十分でなく、本当にう

れしく思います」と謝意を述べた。竹田委員長は「今後も地道に活動を続けて、皆さんに喜んでいただければ」と話していた。

媒体名	交通毎日新聞
掲載日	2019.2.7

媒体名	日刊自動車新聞
掲載日	2019.2.1

大阪で車いすを寄贈 ヤナセ労組

ヤナセ労働組合（竹田玄明中央執行委員長）はこのほど、大阪府阪南市の社会福祉協議会に車いすを寄贈した。ヤナセとグループ会社の組合員、約3700人が行う社会貢献活動で、今回で7回目となる。ヤナセ労働組合の竹田委員長らが社会福祉協議会の矢島満夫事務局長に車いすを贈呈した一写真。

組合員や家族が集めた飲料缶のリンクプルをアルミ資源とし、車いすと交換。2008年に日本自動車会館へ寄贈して以降、日本各地の社会福祉協議会に車いすを寄贈している。今回は、飲料缶40万本分にあたる200キ



ロを収集した。

ヤナセ労働組合はこのほか、エコキャップ運動や外貨紙幣収集によるワクチン支援活動も行っている。